

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	熊本駅前看護リハビリテーション学院
設置者名	学校法人 青照学舎

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.ekigaku.ac.jp/school-info/public/
収支計算書又は損益計算書	http://www.ekigaku.ac.jp/school-info/public/
財産目録	http://www.ekigaku.ac.jp/school-info/public/
事業報告書	http://www.ekigaku.ac.jp/school-info/public/
監事による監査報告（書）	http://www.ekigaku.ac.jp/school-info/public/

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

（理学療法学科）

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療分野		医療専門課程	理学療法学科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	3690 単位時間	2010 単位時間	690 単位時間	990 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			3450 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
240人		127人	0人	6人	27人	33人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業内容については、各教員が十分に検討し、また各学科内で他教科との関連性等検討を加え、その内容をシラバスに解りやすく明記する。授業目標（GIO）や行動目標（SBO）を明確に定め、授業計画に反映させている。成績評価についてはその手段を明記し、学生にとってもより明確となるようにしている。年度シラバス集は全学生に配布したうえで講義初回に学生に対し説明し、学生と教員の契約という位置づけを取っている。また、ホームページにも公表している。
成績評価の基準・方法
（概要） 単位の取得は学期末の試験または随時試験後の総合評価において、80点以上を「優」、70～79点を「良」、60～69点を「可」、59点以下を「不可」とし、60点以上を単位取得となる。不可は再試験を実施し、60点以上の場合、単位取

得となるが、60点未満の場合、単位未取得となり、再度の受講若しくは単位認定試験または特別試験の対象となる。単位取得に関しては、学生便覧の学則の「既取得単位の認定」及び履修規程の「単位認定」及び「授業科目成績評価」で定められており、その内容は、学生、保護者に周知することとしている。成績の分布状況については、成績管理システムを活用することにより、各学科・各学年における本人の位置を客観視できるなど適切に実施がなされている。
卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業の認定については、学生便覧の学則の「課程修了の認定」において、授業科目の成績評価に基づいて、学校長は課程修了の認定を行う。所定の修業年限以上在学し、課程を卒業したと認めた者には、卒業証書を授与すると定められており、学生のみならず後援会（保護者会）においても公表、説明している。また、認定の決定については、各学科において検討した後、学校長が学校運営会議の決議を経て行うことにより適切に実施がなされている。
学修支援等
(概要) 学修成果の評価については定期試験または随時試験の成績のみに左右されるのではなく、小テストやレポート等の課題遂行状況を総合的に勘案して算出している。定期試験の結果のみに依存しないことにより、その他の課題の状況で学習意欲や習熟度を知ることが可能となる。レポート評価については、評価基準を設定し、妥当な判定が下せるようにしている。それぞれの要素が評価判定に占める割合を明示もしくは口頭で初回講義時に学生に広く周知するようにしている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）				
	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
	28人 (100%)	0人 (0%)	23人 (82.1%)	5人 (17.9%)
(主な就職、業界等) 病院、介護保険事業所、NPO 法人				
(就職指導内容) 個別面談、校内就職ガイダンス等の実施				
(主な学修成果（資格・検定等）) 国家試験受験資格、高度専門士、大学院入学資格等				
(備考) (任意記載事項)				

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
116人	6人	5.2%
(中途退学の主な理由) 学業不振、進路変更、経済的理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) 個別・三者面談の実施、スクールカウンセリング等		

(作業療法学科)

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療分野		医療専門課程	理学療法学科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	3870 単位時間	1680 単位時間	930 単位時間	1260 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			3690 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
240人		84人	0人	6人	29人	35人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)	
(概要) 授業内容については、各教員が十分に検討し、また各学科内で他教科との関連性等検討を加え、その内容をシラバスに解りやすく明記する。授業目標 (GIO) や行動目標 (SBO) を明確に定め、授業計画に反映させている。成績評価についてはその手段を明記し、学生にとってもより明確となるようにしている。年度シラバス集は全学生に配布したうえで講義初回に学生に対し説明し、学生と教員の契約という位置づけを取っている。また、ホームページにも公表している。	
成績評価の基準・方法	
(概要) 単位の取得は学期末の試験または随時試験後の総合評価において、80点以上を「優」、70～79点を「良」、60～69点を「可」、59点以下を「不可」とし、60点以上を単位取得となる。不可は再試験を実施し、60点以上の場合、単位取得となるが、60点未満の場合、単位未取得となり、再度の受講若しくは単位認定試験または特別試験の対象となる。単位取得に関しては、学生便覧の学則の「既取得単位の認定」及び履修規程の「単位認定」及び「授業科目成績評価」で定められており、その内容は、学生、保護者に周知することとしている。成績の分布状況については、成績管理システムを活用することにより、各学科・各学年における本人の位置を客観視できるなど適切に実施がなされている。	
卒業・進級の認定基準	
(概要) 卒業の認定については、学生便覧の学則の「課程修了の認定」において、授業科目の成績評価に基づいて、学校長は課程修了の認定を行う。所定の修業年限以上在学し、課程を卒業したと認めた者には、卒業証書を授与すると定められており、学生のみならず後援会 (保護者会) においても公表、説明している。また、認定の決定については、各学科において検討した後、学校長が学校運営会議の決議を経て行うことにより適切に実施がなされている。	
学修支援等	
(概要) 学修成果の評価については定期試験または随時試験の成績のみに左右されるのではなく、小テストやレポート等の課題遂行状況を総合的に勘案して算出している。定期試験の結果のみに依存しないことにより、その他の課題の状況で学習意欲や習熟度を知ることが可能となる。レポート評価については、評価基準を設定し、妥当な判定が下せるようにしている。それぞれの要素が評価判定に占める割合を明示もしくは口頭で初回講義時に学生に広く周知するようにしている。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）				
	卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
	27人 (100%)	0人 (0%)	25人 (92.6%)	2人 (7.4%)
（主な就職、業界等） 病院、介護老人保健施設、発達事業所、介護・通所事業所				
（就職指導内容） 個別面談、校内就職ガイダンス等の実施				
（主な学修成果（資格・検定等）） 国家試験受験資格、高度専門士、大学院入学資格等				
（備考）（任意記載事項）				

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
84人	2人	1.2%
（中途退学の主な理由） 学業不振、進路変更、経済的理由		
（中退防止・中退者支援のための取組） 個別・三者面談の実施、スクールカウンセリング等		

（言語聴覚療法学科）

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
医療分野	医療専門課程	言語聴覚療法学科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	3750 単位時間	2280 単位時間	750 単位時間	720 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
		3750 単位時間					
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
160人	88人	0人	6人	32人	38人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業内容については、各教員が十分に検討し、また各学科内で他教科との関連性等検討を加え、その内容をシラバスに解りやすく明記する。授業目標（GIO）や行動目標（SBO）を明確に定め、授業計画に反映させている。成績評価についてはその手段を明記し、学生にとってもより明確となるようにしている。年度シラバス集は全学生に配布したうえで講義初回に学生に対し説明し、学生と教員の契約という位置づけを取っている。また、ホームページにも公表している。

成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>単位の取得は学期末の試験または随時試験後の総合評価において、80点以上を「優」、70～79点を「良」、60～69点を「可」、59点以下を「不可」とし、60点以上を単位取得となる。不可は再試験を実施し、60点以上の場合、単位取得となるが、60点未満の場合、単位未取得となり、再度の受講若しくは単位認定試験または特別試験の対象となる。単位取得に関しては、学生便覧の学則の「既取得単位の認定」及び履修規程の「単位認定」及び「授業科目成績評価」で定められており、その内容は、学生、保護者に周知することとしている。成績の分布状況については、成績管理システムを活用することにより、各学科・各学年における本人の位置を客観視できるなど適切に実施がなされている。</p>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>卒業の認定については、学生便覧の学則の「課程修了の認定」において、授業科目の成績評価に基づいて、学校長は課程修了の認定を行う。所定の修業年限以上在学し、課程を卒業したと認められた者には、卒業証書を授与すると定められており、学生のみならず後援会（保護者会）においても公表、説明している。また、認定の決定については、各学科において検討した後、学校長が学校運営会議の決議を経て行うことにより適切に実施がなされている。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>学修成果の評価については定期試験または随時試験の成績のみに左右されるのではなく、小テストやレポート等の課題遂行状況を総合的に勘案して算出している。定期試験の結果のみに依存しないことにより、その他の課題の状況で学習意欲や習熟度を知ることが可能となる。レポート評価については、評価基準を設定し、妥当な判定が下せるようにしている。それぞれの要素が評価判定に占める割合を明示もしくは口頭で初回講義時に学生に広く周知するようにしている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）				
	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
	17人 (100%)	0人 (0%)	12人 (70.6%)	5人 (29.4%)
(主な就職、業界等) 病院				
(就職指導内容) 個別面談、校内就職ガイダンス等の実施				
(主な学修成果 (資格・検定等)) 国家試験受験資格、高度専門士、大学院入学資格等				
(備考) (任意記載事項)				

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
84 人	1 人	1.2%
(中途退学の主な理由) 進路変更、経済的理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) 個別・三者面談の実施、スクールカウンセリング等		

(看護学科)

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療分野		医療専門課程	看護学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	3015 単位時間	1185 単位時間	795 単位時間	1035 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			3015 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
240 人		219 人	1 人	12 人	55 人	67 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業内容については、各教員が十分に検討し、また各学科内で他教科との関連性等検討を加え、その内容をシラバスに解りやすく明記する。授業目標 (GIO) や行動目標 (SBO) を明確に定め、授業計画に反映させている。成績評価についてはその手段を明記し、学生にとってもより明確となるようにしている。年度シラバス集は全学生に配布したうえで講義初回に学生に対し説明し、学生と教員の契約という位置づけを取っている。また、ホームページにも公表している。
成績評価の基準・方法
(概要) 単位の取得は学期末の試験または随時試験後の総合評価において、80点以上を「優」、70～79点を「良」、60～69点を「可」、59点以下を「不可」とし、60点以上を単位取得となる。不可は再試験を実施し、60点以上の場合、単位取得となるが、60点未満の場合、単位未取得となり、再度の受講若しくは単位認定試験または特別試験の対象となる。単位取得に関しては、学生便覧の学則の「既取得単位の認定」及び履修規程の「単位認定」及び「授業科目成績評価」で定められており、その内容は、学生、保護者に周知することとしている。成績の分布状況については、成績管理システムを活用することにより、各学科・各学年における本人の位置を客観視できるなど適切に実施がなされている。

卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業の認定については、学生便覧の学則の「課程修了の認定」において、授業科目の成績評価に基づいて、学校長は課程修了の認定を行う。所定の修業年限以上在学し、課程を卒業したと認めた者には、卒業証書を授与すると定められており、学生のみならず後援会（保護者会）においても公表、説明している。また、認定の決定については、各学科において検討した後、学校長が学校運営会議の決議を経て行うことにより適切に実施がなされている。
学修支援等
(概要) 学修成果の評価については定期試験または随時試験の成績のみに左右されるのではなく、小テストやレポート等の課題遂行状況を総合的に勘案して算出している。定期試験の結果のみに依存しないことにより、その他の課題の状況で学習意欲や習熟度を知ることが可能となる。レポート評価については、評価基準を設定し、妥当な判定が下せるようにしている。それぞれの要素が評価判定に占める割合を明示もしくは口頭で初回講義時に学生に広く周知するようにしている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）				
	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
	61人 (100%)	0人 (0%)	51人 (83.6%)	10人 (16.4%)
(主な就職、業界等) 病院				
(就職指導内容) 個別面談、校内就職ガイダンス等の実施				
(主な学修成果（資格・検定等）) 国家試験受験資格、保健師・助産師学校養成所受験資格、専門士				
(備考) (任意記載事項)				

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
225人	14人	6.2%
(中途退学の主な理由) 学業不振、進路変更、経済的理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) 個別・三者面談の実施、スクールカウンセリング等		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
理学療法学科	300,000 円	600,000 円	450,000 円	その他欄内訳 実験実習費 200,000 円 施設充実費 250,000 円
作業療法学科	300,000 円	600,000 円	450,000 円	その他欄内訳 実験実習費 200,000 円 施設充実費 250,000 円
言語聴覚療法学科	300,000 円	600,000 円	450,000 円	その他欄内訳 実験実習費 200,000 円 施設充実費 250,000 円
看護学科	200,000 円	520,000 円	320,000 円	その他欄内訳 実験実習費 150,000 円 施設充実費 170,000 円
修学支援 (任意記載事項)				
学校法人独自の貸与奨学金制度 対象者：本学に在籍し、学費支弁が困難な者。 貸与額等：20 万円～50 万円 (各学年 5 名程度)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://www.ekigaku.ac.jp/school-info/public/		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 本校においては、学校関係者評価委員会規則第 3 条の規定に基づき、(1) 業界団体・専修学校団体・職能団体・専門分野別の関係団体等の関係者、(2) 所轄庁・自治体の関係部局職員、(3) 中学校・高等学校等の教職員、(4) 生徒、(5) 卒業生、(6) 保護者、(7) 地域住民のうち、(1)～(2) から少なくとも 1 名、(3)～(7) から少なくとも 2 名の委員を選出することになっており、現在、職能団体役員 2 名、関係団体役員 3 名、高等学校教職員 1 名、保護者 1 名、卒業生 1 名、事務局 8 名 (計 16 名) で構成される学校関係者評価委員会を組織し、学校の教育水準の向上を図り、かつ社会的使命を達成するため、それぞれの知見を活かした学校運営・教育活動・生徒指導・教育環境等の項目についての評価を実施する。 学校関係者評価委員会からの意見は、理事会・学校運営委員会・教育課程編成委員会などで報告するとともに、学校の諸問題を解決するために教職員に周知し、学校運営の改善・円滑化、教育の質の確保・向上に取り組んでいくこととしている。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
公益社団法人熊本県理学療法士協会	R2. 6. 28～R4. 6. 27	職能団体
一般社団法人熊本県作業療法士会	H1. 7. 19～R3. 7. 18	職能団体
一般社団法人熊本県言語聴覚士会	R2. 4. 1～R4. 3. 31	職能団体

医療法人 相生会 にしくまもと病院 セラピスト課	R2. 7. 2～R4. 7. 1	企業等委員
医療法人 富尾会 桜が丘病院 作業療法室	R1. 7. 29～R3. 7. 28	企業等委員
医療法人 朝日野会 十善病院	R2. 4. 1～R4. 3. 31	企業等委員
独立行政法人 国立病院機構 熊本再春医療センター	R1. 12. 18～R3. 12. 17	企業等委員
熊本県立熊本農業高等学校	R3. 4. 23～R5. 4. 22	高等学校
熊本駅前看護リハビリテーション学 院後援会	R3. 5. 22～R5. 5. 21	保護者
熊本駅前看護リハビリテーション学 院同窓会	R1. 8. 16～R3. 8. 15	卒業生
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://www.ekigaku.ac.jp/school-info/public/		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://www.ekigaku.ac.jp/school-info/public/
--